

動物系教育・研究に関する答申

2000年10月23日

農学部将来構想委員会

動物系教育・研究に関する専門部会（二次）

はじめに

平成10年10月、新聞報道により、突然、獣医学科の九州大学統合構想が表面化した。これを受ける形で平成11年3月17日に農学部将来構想委員会規則が制定され、獣医問題を始めとする農学部の将来構想に関する論議が始まった。その後、農学部将来構想委員会専門部会内規が制定（平成11年5月19日）され、間もなく動物系教育・研究に関する専門部会（一次）（萬田委員長）が発足し、審議を重ねて、平成11年10月25日、農学部将来構想委員会委員長（農学部長）に対して動物系教育・研究に関する答申がなされた。

答申に盛り込まれた具体案は大別すれば、（1案）鹿児島大学農学部内での充実構想、（2案）新学部構想、（3案）宮崎大学との連合大学構想、（4案）九大統合移転構想の4案併記である。1案については可能性が低いと判断し具体的な構想を示しておらず、2、3案はいずれも獣医学科と旧畜産学科を対象とした構想となっている。結果的に、専門部会（一次）では一定の方向を結論づけることができず、判断を農学部将来構想委員会ならびに農学部教授会に委ねた。

この答申は農学部将来構想委員会、講座会議に諮られたがここでは審議は進まず、提出された答申の選択肢の有無を含めて、農学部全体の基本的将来構想等を検討するため、平成12年4月、将来構想委員会の下部組織として基本構想専門部会（竹田委員長）が設置された。基本構想専門部会は6回の部会を開き審議を重ねて、平成12年6月29日に農学部将来構想委員会に対して、動物系教育・研究に関する専門部会（二次）を設置し獣医学教育の学内での充実構想への最初のステップとして学部の自助努力で最大限対応が可能な教育研究分野と充足すべき分野について緊急に検討を深めるよう要請した。この要請は、動物系教育・研究に関する専門部会（萬田委員長）答申では可能性が低いと判断した1案についての検討を要求しており、動物系教育・研究に関する専門部会（二次）は極めて困難な課題に取り組むことになった。

以上が動物系教育・研究に関する専門部会（二次）が設置されるまでの経緯である。

動物系教育・研究に関する専門部会（二次）のメンバー

荒井 啓 坂本 紘 坂爪 浩史 佐藤 宗治 竹田 靖史 出口 栄三郎
林 國興（委員長） 萬田 正治 守田 和夫 柳田 宏一

動物系教育・研究に関する専門部会（二次）の審議の経緯

動物系教育・研究に関する専門部会（二次）は平成12年7月21日に第1回の部会を開催した。第1回部会では、とりあえず、第2回部会の前に獣医学科が教育目標と理念を盛り込んだカリキュラム案と組織案を各委員に配布し、これをたたき台にして、次回から関連学科（獣医学科）講座（家畜生産学講座、食品機能化学講座）（旧畜産学科）に諮りながら審議を進めていくことを確認した。第2回部会では獣医学科案および食品機能化学講座案について検討したが、両案はいずれも非現実的であるとの意見が多く出された。その後、当該学科・講座の意見を聞きながら、3回の部会を重ね、私案を含めた新たな8案についても議論を重ねた。その結果、別紙に示す3案を併記して将来構想委員会委員長に答申することで合意が得られた。この3案は、獣医学科として、現在、最も充実している大阪府立大学獣医学科の内容に近いものである。

この3案に対する当該学科・講座の意見の概略は次の通りである。第1案については獣医学科および旧畜産学科教官のほとんどが賛成したが、第2案、第3案、とくに第2案については旧畜産学科教官の多くが反対であった。獣医学科は第2案にも賛成であった。一方、多くの委員より、第1案では自助努力の様子が見られず他学部の協力が得られにくいという意見が出された。しかし、大方の委員は講座あるいは学科の代表として選出されておらず、獣医学科、旧畜産学科以外の講座からの意見聴取はこれからの問題である。

尚、第1案は当初の獣医学科案に少し手を加えたものであり、農学部改組時（平成2年）の助手からの振り替え教授席（家畜生産学、園芸生産学、生命機能化学、食糧生産化学）旧教養部からの移籍教授席（生命機能化学）および獣医学科以外の農学部助手席（1名）を教授席に振り替えて新獣医学科に移籍し、これに、獣医学科助手の教授振り替え、兼任教官、客員教官などを加えたものである。

第2案は、第1案に旧畜産学科の一部を加え、改組時の振り替え教授席は3（第1案では4）を新学科に移籍している点が第1案との主な違いである。

第3案は、獣医学科と旧畜産学科を合わせ、これに改組時の振り替え教授席3および旧教養部よりの移籍教授席1を加えたものであり、現状をできるだけ変えない形になっているが、

概算要求時の工夫はまだ施されていない。

関連する問題

大学院

山口大学および宮崎大学の獣医学科が統合され九州大学獣医学部が創設されると山口大学大学院連合獣医学研究科が廃止される。したがって、鹿児島大学大学院連合農学研究科および概算要求準備中の部局化による新鹿児島大学生命医科学研究科への参加について検討しなければならない。修士課程については獣医師免許受験資格のない研究科を別途に新設することも可能である。

学生定員

新学科は6年制である。学生定員は第1案では30名、第2案および第3案では40名である。新学科創設により他学科の学生定員に影響が及ぶことも考えられる。

部会開催日時

- 第1回 平成12年 7月21日 午後 4時より
- 第2回 平成12年 8月 4日 午後 4時より
- 第3回 平成12年 8月17日 午後 4時より
- 第4回 平成12年 9月 5日 午後 4時より
- 第5回 平成12年10月 3日 午後 4時より
- 第6回 平成12年10月18日 午前10時より

第1案 獣医学科（仮称）

学生定員 30名（6年制）

大講座	研究室	現定員				改組後				
		教授	助教授	助手	合計	教授	助教授	助手	兼任助教授	合計
臨床獣医学	内科学	1	1		8	1	1	?		18 兼任0 改組時振替3 助手振替3 客員3 純増1
	外科学	1	1	1		1	1			
	臨床繁殖学	1	1			1	1	1		
	画像診断学									
	臨床病理学									
	臨床検査学								?	
	産業動物医学						1*	1*		
	家畜病院	1					1		1* 1#	
病態・予防獣医学	病理学	1	1	1	8	1	1	?	1	15 兼任3 改組時振替1 教養移籍1 助手振替1 純増2 助手減1
	医動物学	1	1			1#	1			
	微生物学	1	1			1	1			
	伝染病学								1	
	公衆衛生学	1	1	1		1	1			
	食品衛生学									
	魚病学						1#		?	
基礎獣医学	解剖学	1	1	1	9	1	1	?	1	14 兼任4 振替0 純増3 助手減2
	発生工学									
	生理学	1	1	1		1#	1		1	
	生化学						1	1		
	薬理学	1	1	1		1#				
	毒性学						1#			
	実験動物学						1#		?	
合計		10	9	6	25	21	14	5	7	47 兼任7 改組時振替4 教養移籍1 助手振替4 客員3 純増6 助手減3

兼任教官は医学部（助教授6）水産学部（助教授1）より

：獣医学科助手振替（3）、改組時の振替教授（4）、旧教養部からの移籍教授（1）、他学科助手

振替（1）

*：客員教官（鹿児島県獣医師会より）

#：純増

第2案 動物生産医学科 (仮称)

学生定員 40名 (6年制)

大講座	研究室	現定員				改組後				
		教授	助教授	助手	合計	教授	助教授	助手	兼任助教授	合計
臨床動物学	内科学	1	1			1	1	?		18 兼任0 改組時振替3 助手振替3 客員3 純増1
	外科学	1	1	1	8	1	1			
	臨床繁殖学	1	1			1	1	1		
	画像診断学									
	臨床病理学									
	臨床検査学							?		
	産業動物医学					1*	1*			
	家畜病院	1				1		1* 1#		
病態・予防動物学	病理学	1	1	1		1	1	?		15 兼任3 教養移籍1 助手振替1 純増3 助手減1
	医動物学					1#			1	
	微生物学	1	1		8	1	1	1		
	伝染病学					1#				
	公衆衛生学	1	1	1		1	1			
	食品衛生学									
基礎動物学	解剖学	1	1	1		1	1	?		13 兼任3 振替0 純増3 助手減2
	生理学	1	1	1	9	1	1			
	生化学					1#		1	1	
	薬理学	1	1	1		1	1			
	毒性学					1#			1	
	実験動物学					1#		?	1	
動物生産学	遺伝育種学	1	1	1		1	1	1		13 兼任3 振替0 純増0 助手減1
	繁殖生理学	2	1		1	1	1		1	
	発生工学				1	1				
	行動管理学	1	1			1	1			
	栄養生化学	1	1	1		1	1			
	牧場管理学								2教授1、 助手1)	
合計		15	13	8	36	26	18	6	9	59 兼任9 改組時振替3 教養移籍1 助手振替4 客員3 純増7 助手減4

兼任教官は医学部(助教授6)、水産学部(助教授1)および牧場(教授1、助手1)より

：助手振替（４）改組時の振替教授（３）旧教養部からの移籍教授（１）
 ＊：客員教官（鹿児島県獣医師会より） #：純増

第3案 動物医科学科（仮称）

学生定員 40名（6年制）

大講座	研究室	現定員				改組後				合計
		教授	助教授	助手	合計	教授	助教授	助手	兼任助教授	
臨床獣医学	内科学	1	1			2a	1			10
	外科学	1	1	1	7	2b	1	1		兼任1 改組時振替2
	臨床繁殖学	1	1			1	1			
	放射線学								1	
病態・予防獣医学	病理学	1	1	1		1	1	1		11
	微生物学	1	1			1	1			
	公衆衛生学	1	1		7	1	1			
	魚病学					1c				兼任3 教養移籍1
	寄生虫学							1		
	伝染病学 衛生学							1 1 1		
基礎獣医学	解剖学	1	1	1		1	1	1		10
	生理学	1	1	1	9	1	1	1		兼任1
	薬理学	1	1	1		1	1	1		
	毒性学								1	
応用生命化学	動物細胞工学	1	1	1		1	1	1		10
	食品化学	1	2		9	1	2d			兼任1
	栄養生化学・飼料化学	1	1	1		1	1	1		
	生理化学								1	
動物生産学	家畜繁殖学	1	1			1	1	1		8
	家畜育種学	1	1	1	8	1	1			改組時振替1
	家畜管理学	1	1			1	1			
	実験動物学	1				1e				
合計		16	16	8	40	19	16	8	6	49 兼任6 改組時振替3 教養移籍1

1. 助手数はローテーションにより実数はこれより少ない

2. 牧場および家畜病院教官は併任とするが、この表には記されていない

3. 兼任助教授は医学部より（概算要求時は教授純増として要求）

a 改組時の振替教授1を含む b 改組時の振替教授1を含む c 旧教養部からの移籍教授

d 留学生担当講師1を含む e 改組時の振替教